

～ 名所旧跡の見学とウォーキング

大磯城山公園と旧吉田茂邸を訪ねて ～

相模原支部事務局

《催行日》 2017年11月8日(水)

《参加者》 9名

明星好光・河合昭平・成田義則・木曾雄吉・笠 義介・大井征治・我妻幾久寿・  
橋本 勝・眞武順造

《散策ルート》

JR大磯駅10時集合 ～ 城山公園 ～ 大磯町郷土資料館 ～ 旧吉田茂邸  
\*大磯駅から15分間隔でバスが出ています。(所要時間約8分)

前日の天気予報では一日曇り模様のはずであったが、大磯駅に着くころにはポツポツ雨が降りだしてきました。やむなく公園内の散策をあきらめ、大磯町郷土資料館～旧吉田茂邸の見学にコースを変更することにしました。全員気を取り直して、程なく神奈中バスに搭乗しました。雨でなければ公園内の散策、展望台からの眺望を楽しむことができたのに実に残念でした。

◇ 大磯町郷土資料館の見学

1898年(明治31年)、この地が三井財閥本家の別荘地となり、中心的建築物「城山荘」や展望室「降鶴亭」、国宝の茶室「如庵」などが建てられました。財閥解体後はほとんどの土地が三井家の手を離れ残った土地も放置されていましたが、その後、三井別荘跡地の再利用案として公園化計画が持ち上がり、1990年(平成2年)に神奈川県立大磯城山(じょうやま)公園として正式に開園しました。歴史的使命を持った三井別邸が大磯町郷土資料館となって、現在に引き継がれています。紀元前1000年以上前から、縄文人の感性によって造られた縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、更に陶器・磁器等が発掘されましたが、当館にはこれ等が展示されています。貴重な文化遺産に触れた高揚感は何物にも代え難いものがあります。

◇ 大磯地域の歴史について

大磯地域は海流や地形の関係で揚子江近郊の中国大陸や朝鮮半島から見れば、住み安い環境だということで多くの縄文人や弥生人が縄文文化や弥生文化を持ってきたところでした。その頃より日本人も多く住むようになり、多くの文化・文明を花咲かせるように発展して行き、その発展過程として相模国の国府が出来て、三代俳諧道場として知られるようになりました。後に別荘地として多くの文人、芸術家、政治家たち(伊藤博文、松本順、吉田茂)が好んで生活するところになったのです。



大磯町郷土資料館



郷土資料館の玄関にて

## ◇ 旧吉田茂邸の見学

旧吉田茂邸は戦後の内閣総理大臣を務めた吉田茂(1878-1967) が暮らしていた邸宅です。もとは明治17年(1884) に吉田茂の養父・吉田健三が土地を購入し、別荘を建てたのが始まりです。昭和20年(1945)より吉田は大磯の邸宅を本邸とし、晩年をこの地で過ごしました。和風の住宅は火事で焼けた後再建(平成29年4月1日)されたものですが、庭園と調和して上品な佇まいでした。建物や所蔵品の多くが消失したそうですが、昔の資料を基に見事に再現されていました。二階の「金の間」は相模湾と富士山が同時に見える部屋で、何とも贅沢。ここで過ごされた晩年は幸せな時間だったのではないのでしょうか。銀の間は吉田茂の寝室兼書斎に、ここで吉田茂は最後を迎えたそうです。園内に堂々と建つ吉田茂の銅像は、講和条約を締結した思い出の地サンフランシスコを向いて立っているのが印象的でした。散策途中には吉田茂本人も合祀されている七賢堂や可愛がっていたであろう愛犬のお墓もありました。例年11月中～下旬はもみじ広場の紅葉が見ごろですが、少し早かったようです。あまり広くはないものの庭園内にはバラ園もあり、ここも人気スポットの一つだそうです。箱根や伊豆の帰り道に寄ってみるのもいいと思います。拝観料(大人)は500円です。



サンフランシスコを向いた吉田茂像の前で

ゆっくりと時間をかけて貴重な歴史建造物や文化遺産に触れる見学会になりました。大和魂や日本人の誇り・ルーツが詰まった大磯の街・・・一度は訪ねてみる価値があると思います。フィナーレはいつものように反省会を兼ねての宴を楽しんで、無事に帰路につきました。

眞武／平野 記